

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町3丁目8-15
訪問調査日	平成30年2月6日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 16名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	8名	

※事業所記入

事業所番号	3890200334
事業所名	グループホームつどい
(ユニット名)	2階
記入者(管理者)	
氏名	村上 東洋子
自己評価作成日	平成29年12月28日

<p>【事業所理念】 一人ひとりの今までの歩みを大切に にし一人ひとりの「今」「この 時」に寄り添います。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 取り組んだこと ①一部の職員が記録に関する外部研修に参加し、学んだことを職員全体に啓蒙した。②介護計画に添ったケアを実践してその結果がどう だったか、記録に残すことを学習した。③利用者の生活の様子や支援の内容を個別に記録することを学習した。④本人の思いや、職員の 気づきを記録し共有する方法を検討した。⑤利用者の身体の変化や異常のサインを記録に残すことを学習した。 その結果 ①職員全体に記録改善の意識ができた。②介護計画に添ったケアを実践した後、評価を記録することに習熟できていない。③生活記録表 に利用者の暮らしの状況、話し言葉等を記録し、支援の内容を個別に記録するようになった。④個別の心身の情報シートを作成し、利用者 の思い、家族の思い、職員の気づき等を記録し、職員間で共有するようになった。⑤利用者の身体の変化や異常のサインを早期に発見 し、個人記録表や生活記録表に残し、共有している。 善点を検討し、より充実した記録を残し、ケアに反映してゆきたい。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 母体施設は地域に根付いている医療機関として、街中において地域住民や商店の協力を 得やすい環境にあり、商店からの立派な雛人形の寄付や、畑に植える苗や野菜をもらうな ど、日常的な交流をしている。また、母体施設が医療機関のため、看護職員も多く、重度化 してもケアを継続して受けられるなど、安心できる事業所である。また家庭的なケアや利用 者本位のケアができるよう職員全員で取り組んでいる様子が伺える。</p>
---	--	--

評価結果表

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、 意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	職員と利用者の会話を大切に、傾聴に努めている。	○	/	○	利用者の希望や意向は、日頃の会話から把握するよう努めている。その際 には、どのような内容でも否定せず、共感するよう心がけ、話しやすい雰囲気 をつくるようにしている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	本人にとって、一番幸せな状態はどうかと検討している。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	家族、知人の来訪時は必ず、ご本人の思いを話し合う。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	心身の情報シートを記録し、全職員が共有している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	毎朝の朝会で本人の思いを共有、修正している。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや 現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入所時の詳細な聞き取りと、入所生活を始めて発見する。	/	/	○	入居時だけでなく、入居後も利用者や家族との日常会話の中から把握 するようしており、その情報は「私の気持ちシート」に追加し、職員全員で 共有している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	職員同士の情報提供と情報共有を行っている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	職員同士の情報提供と情報共有を行っている。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	職員、ご家族から情報を集め、不安の要因を模索している。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	業務優先ではなく、利用者本位のケアを優先している。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント (※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	朝会で、職員が情報提供し、検討している。	/	/	○	「利用者中心」の視点を念頭に置き、利用者が何を望んでいるのかを介護 支援専門員や計画作成担当者が丁寧に聴取し、職員全体のミーティングな どで検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	毎日の朝会、月一のミーティングにて検討している。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	ケアチェック表・ケアプランで課題を明らかにしている。	/	/	/	

愛媛県グループホームつどい

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人と会話して、思いや意向を反映するように努力している。	/	/	/	介護支援専門員や計画作成担当者が、ミーティングで検討した内容を基に介護計画を作成している。介護計画をより良いものにするため、利用者や家族と話し合う機会を設け、出された意見を取り入れて作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	事例検討会にて今必要な事例をあげ、介護計画に反映。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	家族の意向を聞き、本人の気持を配慮した計画にしている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	地域のボランティアによるレクや地方祭参加の協力の内容。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	目標、内容が共有できるように、個人生活記録に密着挿入。	/	/	○	個別ファイルに介護記録や介護計画などを併せて入れ、いつでも確認できるようにしている。改善点などがある際は、朝のショートミーティングなどで随時話し合える場を設け、その内容を申し送り簿に記載している。職員は介護計画に沿ったケアに努めているが、計画に沿った支援を行えているかどうかを確認するには、経過記録から把握しなければならず記載の有無が判別しにくくなっているため、今後は計画に沿ったケアの達成を日々確認できるよう、記載方法を工夫することが望まれる。日頃の利用者の話し言葉を個人生活記録に残しているほか、利用者個々の職員の気づきや工夫、アイデア等は、個別の心身情報シートに記載している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	△	朝会でケアの実践を話し合っている。記録に課題有り。	/	/	△	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	個人生活記録に時系列で状況、話し言葉等記録。	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	個別の心身の情報シートに、職員の気づきや工夫、アイデア等を記録している。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	3ヶ月～4ヶ月で定期的に見直しをしている。	/	/	◎	介護支援専門員や計画作成担当者が、利用者や家族、職員の意見を聞きながら定期的に見直し、毎月のミーティングの中でも個別の検討を行っている。また身体や精神状態の変化が見られたり、終末期の診断を受けたりした場合には、必要に応じ随時計画の見直しをしている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	月末をめどに現状確認を行っている。	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	家族等、職員で話し合い、現状に即した介護計画を作成。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	毎朝のショートミーティングで緊急案件を話し合っている。	/	/	◎	ターミナルケアが必要な場合などには、医師や看護師などの医療関係者も加わり、チームで話し合いを行っている。その内容を申し送り簿に記載することで職員全員の意思統一を図っている。会議に参加できない職員には、会議録を回覧し共有を図っている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	月1回の業務改善会議で業務連絡、意見交換、事例検討を全員が発言できるようにしている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	10日前に会議の通知を発表し、出欠確認。欠席者は事前に意見提出している。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	会議記録を全員が把握し確認サインを取っている。	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	業務日誌、申し送りノートで共有している。	/	/	◎	毎朝のミーティングの内容は申し送り簿に記載しており、伝達漏れを防ぐために申し送りの確認後はサインするようにしている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	生活記録・個人記録・申し送りノート・業務日誌・家族連絡簿	○	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	利用者が「その日したいこと」表現できない場合は、職員が誘導したり、推察している。	/	/	/	興味のないことは強制しないなど、利用者の個性を大切にしている。食事の際もできるだけ自身で食事してもらい、余計な介助に繋がらないよう気をつけている。また、日頃の会話から利用者の思いを傾聴することで、洋裁や習字など利用者が好きなことを把握し、利用者が生き生きできる場面をつくるよう努めている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	レクタイムでしたいこと、フロアで寛ぐ場所の選定、お菓子バイキング等自己決定をしていただいている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	職員は日々の生活の日課において働きかけ、誘導し、納得して暮らせるように、言動を工夫したり、職員間で話し合っ支援するよう努力している。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	利用者と職員が積極的に会話して、気持ちを共有している。	/	/	/	
		e	利用者の生き生きとした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	定期的な声かけを行いつつ、利用者のペースを優先している。	/	/	◎	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	◎	利用者の興味を持っていること、輝いていた過去の話など。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	利用者の反応をキャッチしたら、職員全員で共有している。	○	◎	○	常に意識してケアができるよう接遇やプライバシー保護に関する研修を年間研修に組み入れており、トイレや入浴介助など、羞恥心の伴う介助には特に注意を払っている。また、病状によっては他人に見られたくないこともあり、その気持ちを事前に理解することで、利用者の誇りなどを尊重したケアに繋がれるよう対応している。普段から居室を開けっ放しにせず入室の際にはノックするなど、プライバシーに配慮するよう心がけている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	否定語は使わない。傾聴と共感を学び、実践している。	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	○	プライドを尊重し、さりげない介護を心がけている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	マンツーマンで入浴介助、排せつ介助を行っている。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	居室はプライバシーの空間であることを配慮している。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	個人情報保護について学習し、常に実践している。	/	/	/	利用者同士意見が合わないことなども考えられるが、その際は大きなトラブルになることを避けるため、両者の意見を尊重しそれぞれの立場に立って対処するよう努めている。利用者はそれぞれ自分でできる役割を持っており、生きがいに繋がっている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合っ暮らしていくことの大切さを理解している。	○	生け花の生け方、畑の耕し方など、それぞれ得意な利用者に教えてもらって実践。必ず、「いい物ができて、ありがとう！」と感謝を表している。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	それぞれが自分にできる役割を持ち、役立つ喜びがある。	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	フロアでの座る位置など配慮して、話が弾むようにしている。	/	/	/	

愛媛県グループホームつどい

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	被害妄想によるトラブルが起きると、両方が傷つかないように、別々にお話して、気持ちが収まるように努力している。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	情報共有している。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	情報共有している。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	△	ご家族が積極的に馴染みの場所に連れ出すことが多い。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	ゆっくり話せるように、居室にご案内、お茶の接待をしている。	△	△	○	冬季でインフルエンザなどの感染症が流行する時期の外出は控えているが、それ以外の時期には近隣のコンビニに買い物に行くなど、個別の外出支援にも努めており、利用者の気分転換になっている。また重度の利用者も一緒に戸外へ出る機会を設けているが、十分ではないと感じられるので、今後の取組みに期待したい。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	利用者の希望を優先することを心がけている。猛暑、インフルエンザ流行等で外出を控えることもある。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	×	現在、その協力体制はできていない。	/	/	△	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	リクライニング車いすで、周辺散歩、お花見など行っている。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	地域や幼稚園からのお祭りのご招待を受けたり、季節の観梅、観桜、もみじ狩りなどご家族とともに楽しんでいる。	/	/	/	洗濯物を畳む機会や畑の水やりなどの担当をつくることで、日常の場面でもできることが増え、心身機能の向上に繋がっている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	職員全員が認知症サポーター養成講座を受講済、個々の周辺症状の原因と対策の話し合いをしている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	認知症の特徴、高齢者リスクを学び理解し、生活リハビリで実践している。	○	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	利用者個々の「できること、できそうなこと」を職員間で共有し誘導と見守りを行っている。	/	/	/	花が好きな利用者には事業所に咲いている花を摘んでリビングに生けてもらうなど、利用者の楽しみやしたいことを把握し、それができる環境を整えられるよう支援している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	一人ひとりの今までの歩みを大切に、持てる潜在能力で、野菜切り、豆むぎ、メダカのえさやり、畑耕しなどそれぞれができることを楽しみとしている。	◎	◎	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	要介護4・5のご利用者も毎日、日中はフロアで他利用者・職員と交流し一緒に楽しく過ごしている。	/	/	/	

愛媛県グループホームつどい

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	弘法大師生誕祭に招待をうけ、車いすや歩行介助で会堂に行き、稚児と交流し、甘茶をいただいた。地方祭では玄関まで出て、お神輿をお迎えた。				利用者の身だしなみやおしゃれを称賛するなどの気配りをしており、食事中に食べこぼしがあれば、さりげなく声をかけるよう努めている。また、訪問美容師に利用者似合う髪型にしてみようなど、重度であっても利用者らしさが保てるようにしている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	◎	朝は必ず、今日着るものを相談し、寝衣から普段着に着替えている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	◎	職員は、利用者の身だしなみに関心を持ち、褒めたり、助言をして、ご本人が満足する身だしなみを保つ支援をしている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	ご家族と協力して、おしゃれな服装をしていただき、必ず、賞賛している。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	外出用のジャケット、帽子、靴等ご家族に協力していただいて用意している。	○	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	◎	常にきれいで居るように援助している。ご家族や見学者がいつ来られても、清潔で身だしなみが整っている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	△	定期的に出張美容に来てくれるのを、楽しみにしている。希望の店にご家族が同行する事もある。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	職員は毎朝髪型や服装の点検をし、整容に努めている。				栄養士が栄養のバランスを考え、利用者の好みや旬のものも取り入れながら献立を作成している。利用者には、近隣のスーパーに食材の買い出しに行ったり、食器を下げたりなど、できることは一緒に行ってもらっている。食器については、季節を感じられるものを献立に合わせて使い分けており、湯呑みや箸などは利用者の好みのもを使い、食べる楽しみに繋げている。食事介助が必要な利用者が増え、職員全員と一緒に食事ができない状況にあるが、食事中は会話をするなど楽しい雰囲気をつくるよう心がけている。重度の要介護状態であっても、利用者ができることは見守り、できない部分のみ食事介助するようにしている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	◎	食事前の手洗い、嚥下体操、献立発表、食事の見守りと介助、服薬援助、食後の口腔ケアまで確実に行っている。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△	毎日ではないが、食材の買い物に同行、食材切り、皮むぎ、後片付け等、利用者とともにやっている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	味付け、盛り付けを相談すると、いきいきした表情になる。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	肉が食べられない人、米飯が嫌いな人など、それぞれ代替えの献立を用意している。			◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としてつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	◎	季節のつくし、タケノコ、そらまめ、栗、土用うなぎ、いもたき等々の食材と、節気毎のお雑煮、巻き寿司、柏餅、おはぎ等々の献立を提供している。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	本日の献立の盛り付けを見ていただいてから、食べやすいように工夫して、食べていただいている。			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	茶碗や湯飲み等は、ご本人様が好みの物をもってこられたり、希望によりの施設の物を使用したり、選択に任せている。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	△	食事介助が必要な利用者や、盲目で説明しながら食べていただくので、サポートする職員は常時傍に居るが、一緒に食べる時間のゆとりは無い。おやつは一緒に談笑しながら食べることもある。	◎		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	フロアの一角のオープンキッチンで調理しているので、においや調理の状況が見え、食事前から食事の話題が出ている。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	栄養士がバランスを考慮して、献立を作り、毎食の摂取量を観察記録して、管理している。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	食事摂取困難な、利用者にはムース、ゼリー、とろみ等で工夫しジュース、栄養補助食品等で低栄養、脱水の防止をしている。			◎	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	月1回のミーティングで、話し合いをしている。献立表及び提供している料理の写真をやすらぎ会理事にメールし、ご意見を伺っている。バランスの取れた美味しい食事提供の方針。				

愛媛県グループホームつどい

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	職員はキッチンに入る直前に薬用ソープで手洗いし、すり込み式手指消毒剤で消毒し、専用エプロンを着ける。食材の管理を厳重にし、直接口に入れる物はグローブ着用している。	/	/	/	職員は、年間研修の中で重度の利用者の口腔ケアについて学んでいる。口腔ケアは、居室の洗面台や共用の洗面台で行っており、職員が気をつけながら利用者の口腔の清潔が保てるよう努めている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	歯科医から口腔ケアの研修を受け、重要性を認識している。	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	口腔ケア時の観察によりある程度把握している。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	法人全体で定期的に歯科医の研修を受け、口腔ケアの用具なども使用して支援している。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	夜間は義歯洗浄剤に浸け、毎朝洗浄して使用している。	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	毎食前に口腔体操、食後に口腔ケアを励行している。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	口腔内のトラブル、義歯の不具合を発見すると、主治医とご家族に連絡し、歯科受診をしている。	/	/	/	適切な排泄用品の使い方や介助の方法について年間研修計画を立て、職員全員が学ぶ機会を持っている。利用者が自分でトイレに行くことを基本にしており、排泄にトラブルがあればその都度話し合い改善に繋げている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	排泄の自立を尊重して、自主的にトイレに行くことを基本としている。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	ミーティングで学習し、ほぼ理解している。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	個人の排尿排便について回数、性状等を詳細に記録して、共有している。	◎	/	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	個々の状況によるが、失禁してしまったという意識を軽減するために、パット、紙パンツを使用し、安心してもらう場合もある。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	△	現在、排泄困難の事例はないが、事例が出たときに備え、意識を持ちたい。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	定期的に誘導の必要な人には、早めの声かけや誘導を行っている。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	緊急時を除き、必要な場合はご本人、ご家族と話し合っ、どのような物を、どの時間帯に使うか相談して決めている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	個人の状況により、適時使い分けている。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	野菜、食物繊維をとり入れた献立の工夫をしている。毎日のリハビリ体操、食前の口腔体操と一緒に腹部マッサージを、行っている。	◎	/	○	利用者が希望する時間帯に入浴できるよう支援している。重度の利用者でも湯船に浸かれるよう、昨年10月にリフトを設置し喜ばれている。1対1の介助や同性介助などにも配慮している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	最低週2回は入浴できるように、計画しているが、ご利用者のご気分、ご希望、体調により、融通、変更している。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	一人ずつ見守りのもと、ゆっくり入浴している。季節により、ゆず湯、しょうぶ湯などパラエティーを楽しんでいる。自力で立ち上がれない方にはリフトでゆっくり湯に浸かっている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	安全のため、マンツーマンの介助で入浴しているが、本人が自力でできることはしていただき、できないことを援助している。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	声かけの工夫、時間の工夫をして、どのようにしたら入浴してくれるか、情報を共有している。	/	/	/	

愛媛県グループホームつどい

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	入浴直前にバイタルチェックと体調を確認している。入浴中は全身の皮膚状態を観察、異状時は看護師に報告、対処している。入浴後の着衣、水分摂取まで担当している。	/	/	/	日中に活動する機会を持つことで安眠できるよう支援しているため、睡眠導入剤に頼っている利用者はいない。眠りが浅く夜中に起きてしまう場合には、リビングで一緒にお茶を飲みながら会話するなど、利用者がリラックスできるよう配慮している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	睡眠時の様子を生活記録に記載し、職員全員が共有している。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	△	基本的には生活リズムを作っているが、利用者によって、今までの長い生活リズムがあり、夜更かし、朝寝の習慣が身につけている人もいる。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	現在睡眠導入剤を服用している方はいない。不要不急な内服は避け、主治医と相談の上、状態観察しながら睡眠導入剤投与の選択もある。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	個人個人の生活リズムに合わせ、お昼寝や休養の時間をとっている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	ご本人のご希望に添えるように支援している。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	電話中に傍で、本人の気持ちを、家族に伝えることもある。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	居室にて、施設の携帯電話を使っている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	ご本人のご希望に従って対応している。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	入所時の話し合いでご協力を依頼している。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	もの盗られ妄想の利用者が数人居るので、個人的には所持していない。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	一定の金額を持っていただいて、コンビニ、スーパーマーケットにお買い物に行き、自力でお支払いできるよう援助している。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	近隣のコンビニ、スーパーマーケットに協力を依頼している。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	△	ご家族と相談の上、日常は所持せず、買い物の時には一定額を持ってもらっている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	△	話し合いの結果、個人では所持していない。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	△	基本的に預かり金はなし。使用した分は請求書に記載。	◎	/	○	利用者や家族が希望することについては、職員全員で話し合う機会を持ち、できるだけ対応したいと考えている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	建物横の道路際につどいファームという畑を作り、花木、実のなる木、草花、野菜等を道行く人にも楽しんでいただき、近隣の方が、気軽に草花の苗や野菜を持参して下さっている。玄関には月替わりに、手作りの季節の置物を置き、来所者に楽しんでいただいている。	◎	◎	○	玄関には月替わりで手づくりのものを飾るようにしており、それを楽しみに来所される人もいます。また建物周辺の花や畑を整備し、外からでも楽しんでもらえる環境づくりにも取り組んでいる。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	常時、季節のお花を飾り、つどいだより、ご家族と一緒にの写真等を飾り、すっきりと清潔で心温まる空間としている。	◎	◎	◎	地域の協力を得ながら雛人形やクリスマスツリーなどの装飾を行い、利用者や来所した家族が季節を感じられ心地良く過ごせるよう工夫している。共用空間であるリビングには、食事や作業をするテーブルや利用者がくつろげるようソファ席を設けており、自由に過ごせるようにしている。大きな窓からは日光が差し込み、外を走る車や道行く人の様子を見て楽しんでいる利用者もいる。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	全館を通し職員により、清掃は行き届き、清潔保持がなされている。	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節毎に、松飾り、ひな様、五月人形、七夕、クリスマスツリー等利用者と一緒にご意見を尊重して、用意したり片付けたりしている。	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	プライバシーの保てる居室、共用のフロアを自由に歩き来しソファを都合良く動かし、気の合う同士で交流している。	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	◎	構造上直接見えない。常に見守りの職員が控えている。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	使い慣れた食器を使用し、居室には思い出の写真、孫・ひ孫さんからの手紙を飾って、暖かい雰囲気生活している。	◎	/	○	採光できるよう居室は全て東向きになっている。利用者は使い慣れた机やたんすを持ち込んだり、家族の写真や趣味の習字を飾ったりと、心地良く過ごせる居室づくりをしている。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	建物内部は全てバリアフリーとなっているので、能力に応じて自由に移動している。エレベーターで自由に別の階を訪問できる。必ず見守りしている。	/	/	/	居室の扉は同じようなつくりのため、認知症の利用者でもわかりやすいように、リボンや名札など一人ひとり違った目印を置くことで、自立した生活が送れるよう工夫している。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	居室、共用のフロア等に危険を誘発するものは、置かないルールがある。	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	ほうき、生け花の花器、新聞、雑誌、お茶、湯飲み、メダカの水槽等は身近に置いている。その他希望に応じて直ぐにお出ししている。	/	/	/	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	弊害を理解した上で、施設が市街の中心地に有り交通が頻繁な交差点の角地のため、一歩屋外に出ると危険がある。徘徊の利用者も入居しているので安全を優先し、玄関のみ、やむを得ず施錠しているが、利用者が希望すれば必ず職員同行で外出している。	x	x	△	職員は鍵をかけることの弊害を研修で学んでおり理解している。事業所は車通りの多い道路に面していることも考え、利用者の安全のため家族には同意を得て玄関に鍵をかけている。3階建ての建物の各階へは自由に行き来できるようになっているが、今後は職員が随時見守るなど検討し、鍵をかけない支援にも取り組んで欲しい。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	△	家族と話し合いのもと、建物の1階から3階まで自由に行動していただいている。地域の特性により、防犯と安全重視のため玄関施錠はご家族の理解を得ている。	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	△	常に見守りをし、心理的圧迫をもたらさないように、外出したいときはスムーズに電気錠を解錠して、閉塞感を感じないようにしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	利用者の情報は一人ひとり個別のファイルを作り、職員が常に見て把握できるようになっている。個人情報なので、鍵付き戸棚に入れている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	身体状態の変化や異常のサインを発見した時は、直ちに管理者に報告及び申し送りをしている。個人記録、生活記録に残している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	主治医と医療連携体制ができていますので、主治医はすべての利用者の体調を把握している。いつでも相談指示を仰ぐことができる。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	職員は利用者の受診状況を把握し、ご希望の医療機関に受診できるように支援している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	ご本人・ご家族の意向を確認しながら、主治医、看護師、介護職員で、適切に医療と介護支援を行っている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	ご家族の受診結果の報告、主治医の報告等によりご家族の合意のもと情報共有している。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院時情報提供を必ず入院先病院に提出している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	病院関係者は非常に多忙であるので、こちらから積極的に情報を得るように努めている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	毎朝、入所者の体調を連携病院にFAXで報告しているため、主治医及び病院関係者とは情報共有ができています。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	常勤の看護師1名及び非常勤の看護師1名、准看護師2名が配置されているので、介護職が相談できる環境になっている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	医療連携体制が24時間備わっている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	医療連携体制が24時間備わっている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	病院からの現在服用中の薬剤情報を個人ファイルに挿入しているため、いつでも確認できる。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	服薬に関する3回以上の厳重な確認、ヒヤリハットの徹底と飲み忘れ、誤薬防止を厳守している。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	毎朝のショートミーティングで日常的に確認を行っている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	毎朝FAXで主治医への情報提供及び大事なことはご家族に連絡している。				

愛媛県グループホームつどい

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入所時に重度化した場合の対応、看取り介護の指針を話し合い、状態の変化に応じてご家族の意向確認をしている。	/	/	/	医療機関併設のため、終末期や重度化への対応を強化している。終末期ケアを実施した利用者も多く、その際には、利用者や家族、主治医など、関係者全員で十分に話し合う機会を設けており、安心した終末期を送れるよう取り組んでいる。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	個別の事例ごとにご本人、ご家族、主治医、看護職員、介護職員が話し合い方針を共有している。	○	/	◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	医療連携事業所なので、看取り介護はあること、心構え等を普段から、職員に教育している。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	入所時に看取りを行っていること。主治医の判断で入院治療して、快復が見込まれる方には、入院の選択がある事など説明と同意ができています。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	医療連携体制、看取り介護体制を整えている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	普段からご家族と相談しやすい、話しやすい関係を保ち、キーパーソンを中心に話し合いを行い、家族間の意見の食い違いのあるときは、あせらず、みんなが納得できる方法を一緒に考えている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	感染症対策について、定期的に所内研修、所外研修を行っている。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	実技研修を行い、発生時の対応の仕方を、ロールプレイで訓練している。感染予防グッズのセットを常備している。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	行政から感染症情報がメールで来る。保健所からの情報は連携病院から流してくれる。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	感染症発生状況を敏感にとらえ、職員に自覚を促し、玄関に掲示して来所者に注意とうがい、手指消毒の徹底。感染の疑いのある方への入所厳禁としている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	事業所内(玄関、トイレ、キッチン、各居室、洗面所等)にすり込み式手指消毒剤を常備し、来訪者、職員、利用者の清潔保持徹底を行っている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	ご家族との連絡を詳細に行い、ご家族と職員が同じ方針でご本人を支えていく努力をし、ご家族と円満な関係を築いている。	/	/	/	運営推進会議への参加や、クリスマス会などを利用し家族会を開催するなど、家族が事業所の行事などに参加する機会を設けている。また、利用者の暮らしぶりを伝えるために、事業所の写真入りの広報誌や手紙の送付や電話連絡をしている。家族から運営上の出来事や職員の異動について知りたいという希望が上がっているため、今後は運営推進会議の議事録の送付や各階の職員の異動状況などを伝えることで家族の理解に繋げたいと考えており、今後の取組みが望まれる。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	家族来訪時は日々の生活状況の報告、利用者と一緒にお茶したり、居室で自由に寛いでいただいている。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	行事等の連絡をして、自由に参加し、面会時ゲームをしていると参加され、ご利用者と一緒に茶菓を楽しまれている。	◎	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	疎遠になっていたり、県外に居住しているご家族にも少なくとも月1回は、状態報告と、つどいだより等を送付。また電話連絡にて、気づきの報告やご家族のご意向を伺っている。	○	/	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	△	先ず、ご家族のご事情、ご意向をお伺いしてから、事業所からの報告を行っている。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	ご利用者とご家族の対面時の状況を見て、良い関係構築ができるように協力している。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	都度報告ではなく、内容により、つどいだより、来訪時、請求書郵送時に文書で報告するなどしている。	×	/	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	行事後、ご家族を交えた話し合いをしている。来訪時顔見知りとなった家族同士が交流の場としている。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	入所時に高齢者に起こりうるリスクの説明を行い、同意を得ている。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	気軽に来訪していただき職員とのコミュニケーションが取れていて、気がかりなこと、相談等は気軽に職員・管理者と話している。	/	/	/	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	契約時に契約の内容、重要事項説明、リスク説明、重度化した場合の指針等を説明し、同意を得ている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	退居事例はないが、契約書にて契約解除過程の同意を得ている。退去後のフォローアップができる体制にある。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、同意を得ている。	/	/	/	

愛媛県グループホームつどい

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	開設前から、法人理事とGH管理者が地域の1軒1軒を訪問し、事業所の説明をし、理解を得ている。	/	◎	/	法人の医療機関が地域に根差した医療を展開していたことから、地域との繋がりも深く、行事や運営推進会議などの協力を得やすい状況にある。庭の畑の耕し方のアドバイスや大根などの野菜や苗の差し入れなど、日常的な交流が行われている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	運営推進会議、地域の行事、事業所の防災訓練等の参加により、顔見知りとなり、ご近所さんとしての交流がある。	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	地域的に一般家庭は少ないが、利用者、職員とは気軽に挨拶をし、利用者に声をかけてくれる。	/	/	/	
		d	地域の人気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	遊びに来られることはないが、何かあれば駆けつけてくれる意思疎通がある。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	タケノコ、キュウリ、大根などたくさん手に入ったからと、気軽に持ってきてくださる。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	地域の婦人会や、民舞愛好会などに働きかけると、定期的にボランティアとして、民舞、盆踊り、お茶会などに協力して下さり、手作りお菓子を持ってきて下さったりする。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	地域の人がかつまいもの苗や、トマトの苗を持ってきて下さり、ご利用者と一緒に土作りをしたり、苗を植えたりして、自然に利用者の力を引き出して下さっている。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	ホームだよりをお配りしたり、イベントのご案内をしている。美容室から定期的に出張散髪に来て下さっている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	◎	、毎回利用者ご家族、地域の人、民生委員、市役所職員等の参加がある。	○	/	◎	運営推進会議には、毎回異なる家族や利用者、地域の関係者の参加があり、様々な意見交換がなされている。利用者の様子や活動状況を報告することで、外部評価に対する事業所の取組みを理解してもらい、サービス向上への意見交換に繋げている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	◎	利用状況、活動状況、外部評価への取り組み状況について報告している。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	報告の後は必ず、意見交換会を行い自由に発言していただき、貴重な意見をいただき、サービス向上に活かしている。	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	2~3週間前をメドに日程の連絡をし合って、会議の日時を決めている。	/	/	◎	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	自由に閲覧できるように設置している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	職員の名札の裏側に貼付し、ホールの玄関及び各所に掲示し、毎朝のミーティングの後に全員で唱和し、理念が職員全体に行き渡っている。理念に基づき、ご利用者の生きてきた歴史を尊重しつつ、寄り添う介護に努めている。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	◎	玄関ホール、ホーム内に理念を掲示。毎回ご家族地域の方々に送付するつどいだよりの下欄に理念を記載して確認していただいている。	○	◎		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	法人全体の定期的研修会、毎月の所内研修会、職員の力量に応じた外部研修会に参加する等取り組んでいる。				母体の病院長である代表者は、職員全員のストレスチェックを予定しており、それをもとに職員が働きやすい環境づくりをしている。代表者や施設長も毎日事業所を訪れ、利用者だけでなく職員にも声かけすることで様子の把握に努めている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるように取り組んでいる。	○	毎年度初めに、1年間の研修計画を作成し、全ての職員のスキルアップに取り組んでいる。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	代表者は、個々の努力や実績、勤務状況を把握し、個人的事情や意見を理解して、職場環境・条件の整備、向上に努めている。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	地域のグループホーム交流会、ケアマネ交流会に参加して、研修、防災、防犯、救急訓練等、また情報交換等を行っている。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	職員が代表者に相談や話し合いがしやすいように、いつでも受け入れ体制が有る。	○	◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	高齢者虐待防止法について定期的に学び、虐待や不適切なケアについて理解している。				年間計画に虐待防止や発見時の手順についての研修を取り入れ、職員全体で防止や理解に繋げている。言葉の虐待など、職員同士が注意し合いながらケアするよう努めている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	管理者は、職員のケアが一歩間違えば虐待になることを、敏感にとらえ、職員と日々のケアについて振り返りと話し合いをしている。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	普段から職員に報告、連絡、相談の徹底を行い。見ないふり、気づかないふりは絶対してはならないと教育している。			○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	職員が疲労やストレスを相談しやすい環境作りに努めている。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	身体拘束についての所内研修会を実施、学習して理解している。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	業務を優先して、利用者の自由を束縛すること、例えばドアに施錠などは拘束であり、絶対してはならないなど、話し合いで確認している。				
		c	家族等から拘束や施錠の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	入所時に拘束しないケアの取り組み及びリスクの説明をして理解と同意を得ている。				

愛媛県グループホームつどい

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△	現在、当事業所での適応は内が、管理者、介護支援専門員等は研修を受け理解している。	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	△	事例はないが、相談にのる体制はできている。	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	△	事例はないが、連携体制はできている。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	緊急時対応手順をホール、事務室に掲示し、職員は周知している。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	併設病院と連携して、定期的な訓練に参加している。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハットは必ず提出することが徹底している。定期的にヒヤリハット検討会を行っている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	ミーティングにて、個々の利用者の事例検討会にて検討し、事故防止に取り組んでいる。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情対応のマニュアルを理解し、対応方法について検討している。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	△	特に事例はないが、苦情が寄せられた場合は手順どおりに対応ができるようにしている。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	△	特に事例はないが、苦情が寄せられた場合は手順どおりに対応ができるようにしている。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	苦情担当窓口を設置していることを、重要事項説明書に明記し、説明している。	/	/	○	苦情担当窓口の設置以外に、日常生活でも苦情や要望を言いやすい雰囲気をつくり、利用者がいつでも不満などを表出できるよう配慮している。家族からの意見は、面会時や電話などで聞く機会を設けており、意見箱も設置している。また、管理者は職員が意見や要望を言いやすいよう、他愛のないことでもしっかり聞くよう心がけている。家族からの意見や職員からの提案はミーティングなどで検討している。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	苦情担当窓口を設置していることを、重要事項説明書に明記し、説明している。	○	/	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	△	ご家族との話し合いの場で情報提供している。	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	代表者は医療連携の担当医でもあり、ほぼ毎日来所し、ご利用者、職員の状況を把握しており、気軽に会話している。	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	管理者は、定期的ミーティングには必ず出席し、職員の意見を聞き、ご利用者本位を優先することを常に話し合い、自覚を促している。	/	/	○	

愛媛県グループホームつどい

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	評価項目を職員全体が周知し、平日より自己評価に参加している。	/	/	/	自己評価や外部評価の内容は運営推進会議で報告している。どのように改善すれば良いのかなど、参加者と一緒に検討し意見をもらっており、今後の取組みに活かすことができている。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	課題を明らかにすることにより、年度目標として、取り組んでいる。	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	目標達成計画を作成し、その達成に向けて1年をかけて全体で取り組んでいる。	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進会議メンバー、全ての利用者のご家族には評価結果と目標達成計画を報告している。	○	○	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	日頃より、職員の意識を喚起して、成果の確認をしている。	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	対応マニュアルをいつでも閲覧できるように設置している。	/	/	/	地域の人も参加し、日中や夜間想定 of 防災訓練を実施している。運営推進会議でも、搬送方法の確認や練習、津波の際の移動などについて話し合い、協力や支援体制を強化している。事業所は耐震性の建物であるため、今後は地域の福祉避難所としての提供も検討している。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	年2回の防火訓練と同時に災害訓練を夜間、日中の時間帯を想定して行っている。	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	定期的消防署の点検、及び職員がチェックリストに従って、確認と点検を行っている。	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	◎	年2回の防災訓練には必ず近隣からの参加があり、利用者避難援助の役割を担ってくださっている。	○	◎	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	地域のグループホームで協力して、訓練と学習をしている。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	当事業所において認知症サポーター養成研修を開催し、全職員が認知症サポーターとなっていて、いつでも誰でも相談を受ける体制になっている。	/	/	/	医療機関からの紹介などで、随時地域の高齢者や家族への相談支援を実施している。地域の介護や認知症専門の事業所として、以前に認知症家族の会を開催したことがあるが、現在はそれが断ち切れになっているため、認知症カフェや介護教室などとして再開していきたいと考えており、今後に期待したい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	随時、相談を受けることができる。	/	○	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	実績は無いが、要請があれば事業所を活用していただくことはできます。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	認知症家族の会の見学、相談会の受け入れを行った。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	×	実績はないが、情報があれば、今後参加してゆきたい。	/	/	△	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町3丁目8-15
訪問調査日	平成30年2月6日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 16名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	8名	

※事業所記入

事業所番号	3890200334
事業所名	グループホームつどい
(ユニット名)	3階
記入者(管理者)	
氏名	村上 東洋子
自己評価作成日	平成29年12月28日

<p>【事業所理念】 一人ひとりの今までの歩みを大切に にし一人ひとりの「今」「この 時」に寄り添います。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 取り組んだこと ①一部の職員が記録に関する外部研修に参加し、学んだことを職員全体に啓蒙した。②介護計画に添ったケアを実践してその結果がどう だったか、記録に残すことを学習した。③利用者の生活の様子や支援の内容を個別に記録することを学習した。④本人の思いや、職員の 気づきを記録し共有する方法を検討した。⑤利用者の身体の変化や異常のサインを記録に残すことを学習した。 その結果 ①職員全体に記録改善の意識ができた。②介護計画に添ったケアを実践した後、評価を記録することに習熟できていない。③生活記録表 に利用者の暮らしの状況、話し言葉等を記録し、支援の内容を個別に記録するようになった。④個別の心身の情報シートを作成し、利用者 の思い、家族の思い、職員の気づき等を記録し、職員間で共有するようになった。⑤利用者の身体の変化や異常のサインを早期に発見 し、個人記録表や生活記録表に残し、共有している。 善点を検討し、より充実した記録を残し、ケアに反映してゆきたい。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 母体施設は地域に根付いている医療機関として、街中であって地域住民や商店の協力を 得やすい環境にあり、商店からの立派な雛人形の寄付や、畑に植える苗や野菜をもらうな ど、日常的な交流をしている。また、母体施設が医療機関のため、看護職員も多く、重度化 してもケアを継続して受けられるなど、安心できる事業所である。また家庭的なケアや利用 者本位のケアができるよう職員全員で取り組んでいる様子が伺える。</p>
---	--	--

評価結果表

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	職員と利用者の会話を大切に、傾聴に努めている。	○	/	○	利用者の希望や意向は、日頃の会話から把握するよう努めている。その際には、どのような内容でも否定せず、共感するよう心がけ、話しやすい雰囲気をつくるようにしている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	本人にとって、一番幸せな状態はどうかと検討している。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	家族、知人の来訪時は必ず、ご本人の思いを話し合う。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	心身の情報シートを記録し、全職員が共有している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	毎朝の朝会で本人の思いを共有、修正している。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入所時の詳細な聞き取りと、入所生活を始めて発見する。	/	/	○	入居時だけでなく、入居後も利用者や家族との日常会話の中から把握するようしており、その情報は「私の気持ちシート」に追加し、職員全員で共有している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	職員同士の情報提供と情報共有を行っている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	職員同士の情報提供と情報共有を行っている。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	職員、ご家族から情報を集め、不安の要因を模索している。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	業務優先ではなく、利用者本位のケアを優先している。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	朝会で、職員が情報提供し、検討している。	/	/	○	「利用者中心」の視点を念頭に置き、利用者が何を望んでいるのかを介護支援専門員や計画作成担当者が丁寧に聴取し、職員全体のミーティングなどで検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	毎日の朝会、月一のミーティングにて検討している。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	ケアチェック表・ケアプランで課題を明らかにしている。	/	/	/	

愛媛県グループホームつどい

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人と会話して、思いや意向を反映するように努力している。	/	/	/	介護支援専門員や計画作成担当者が、ミーティングで検討した内容を基に介護計画を作成している。介護計画をより良いものにするため、利用者や家族と話し合う機会を設け、出された意見を取り入れて作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	事例検討会にて今必要な事例をあげ、介護計画に反映。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	家族の意向を聞き、本人の気持を配慮した計画にしている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	地域のボランティアによるレクや地方祭参加の協力の内容。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	目標、内容が共有できるように、個人生活記録に密着挿入。	/	/	○	個別ファイルに介護記録や介護計画などを併せて入れ、いつでも確認できるようにしている。改善点などがある際は、朝のショートミーティングなどで随時話し合える場を設け、その内容を申し送り簿に記載している。職員は介護計画に沿ったケアに努めているが、計画に沿った支援を行えているかどうかを確認するには、経過記録から把握しなければならず記載の有無が判別しにくくなっているため、今後は計画に沿ったケアの達成を日々確認できるよう、記載方法を工夫することが望まれる。日頃の利用者の話し言葉等を個人生活記録に残しているほか、利用者個々の職員の気づきや工夫、アイデア等は、個別の心身情報シートに記載している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	△	朝会でケアの実践を話し合っている。記録に課題有り。	/	/	△	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	個人生活記録に時系列で状況、話し言葉等記録。	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	個別の心身の情報シートに、職員の気づきや工夫、アイデア等を記録している。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	3ヶ月～4ヶ月で定期的に見直しをしている。	/	/	◎	介護支援専門員や計画作成担当者が、利用者や家族、職員の意見を聞きながら定期的に見直し、毎月のミーティングの中でも個別の検討を行っている。また身体や精神状態の変化が見られたり、終末期の診断を受けたりした場合には、必要に応じ随時計画の見直しをしている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	月末をめどに現状確認を行っている。	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	家族等、職員で話し合い、現状に即した介護計画を作成。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	毎朝のショートミーティングで緊急案件を話し合っている。	/	/	◎	ターミナルケアが必要な場合などには、医師や看護師などの医療関係者も加わり、チームで話し合いを行っている。その内容を申し送り簿に記載することで職員全員の意思統一を図っている。会議に参加できない職員には、会議録を回覧し共有を図っている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	月1回の業務改善会議で業務連絡、意見交換、事例検討を全員が発言できるようにしている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	10日前に会議の通知を発表し、出欠確認。欠席者は事前に意見提出している。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	会議記録を全員が把握し確認サインを取っている。	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	業務日誌、申し送りノートで共有している。	/	/	◎	毎朝のミーティングの内容は申し送り簿に記載しており、伝達漏れを防ぐために申し送りの確認後はサインするようにしている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	生活記録・個人記録・申し送りノート・業務日誌・家族連絡簿	○	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	利用者が「その日したいこと」表現できない場合は、職員が誘導したり、推察している。	/	/	/	興味のないことは強制しないなど、利用者の個性を大切にしている。食事の際もできるだけ自身で食事してもらい、余計な介助に繋がらないよう気をつけている。また、日頃の会話から利用者の思いを傾聴することで、洋裁や習字など利用者が好きなことを把握し、利用者が生き生きできる場面をつくるよう努めている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	レクタイムでしたいこと、フロアで寛ぐ場所の選定、お菓子バイキング等自己決定をしていただいている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	職員は日々の生活の日課において働きかけ、誘導し、納得して暮らせるように、言動を工夫したり、職員間で話し合っ支援するよう努力している。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	利用者と職員が積極的に会話して、気持ちを共有している。	/	/	/	
		e	利用者の生き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	定期的な声かけを行いつつ、利用者のペースを優先している。	/	/	◎	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	◎	利用者の興味を持っていること、輝いていた過去の話など。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	利用者の反応をキャッチしたら、職員全員で共有している。	○	◎	○	常に意識してケアができるよう接遇やプライバシー保護に関する研修を年間研修に組み入れており、トイレや入浴介助など、羞恥心の伴う介助には特に注意を払っている。また、病状によっては他人に見られたくないこともあり、その気持ちを事前に理解することで、利用者の誇りなどを尊重したケアに繋がれるよう対応している。普段から居室を開けっ放しにせず入室の際にはノックするなど、プライバシーに配慮するよう心がけている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	否定語は使わない。傾聴と共感を学び、実践している。	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	○	プライドを尊重し、さりげない介護を心がけている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	マンツーマンで入浴介助、排せつ介助を行っている。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	居室はプライバシーの空間であることを配慮している。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	個人情報保護について学習し、常に実践している。	/	/	/	利用者同士意見が合わないことなども考えられるが、その際は大きなトラブルになることを避けるため、両者の意見を尊重しそれぞれの立場に立って対処するよう努めている。利用者はそれぞれ自分でできる役割を持っており、生きがいがつながっている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合っ暮らしていくことの大切さを理解している。	○	生け花の生け方、畑の耕し方など、それぞれ得意な利用者に教えてもらって実践。必ず、「いい物ができて、ありがとう！」と感謝を表している。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	それぞれが自分にできる役割を持ち、役立つ喜びがある。	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	フロアでの座る位置など配慮して、話が弾むようにしている。	/	/	/	

愛媛県グループホームつどい

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	被害妄想によるトラブルが起きると、両方が傷つかないように、別々にお話して、気持ちが収まるように努力している。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	情報共有している。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	情報共有している。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	△	ご家族が積極的に馴染みの場所に連れ出すことが多い。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	ゆっくり話せるように、居室にご案内、お茶の接待をしている。	△	△	○	冬季でインフルエンザなどの感染症が流行する時期の外出は控えているが、それ以外の時期には近隣のコンビニに買い物に行くなど、個別の外出支援にも努めており、利用者の気分転換になっている。また重度の利用者も一緒に戸外へ出る機会を設けているが、十分ではないと感じられるので、今後の取組みに期待したい。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	利用者の希望を優先することを心がけている。猛暑、インフルエンザ流行等で外出を控えることもある。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	×	現在、その協力体制はできていない。	/	/	△	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	リクライニング車いすで、周辺散歩、お花見など行っている。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	地域や幼稚園からのお祭りのご招待を受けたり、季節の観梅、観桜、もみじ狩りなどご家族とともに楽しんでいる。	/	/	/	洗濯物を畳む機会や畑の水やりなどの担当をつくることで、日常の場面でもできることが増え、心身機能の向上に繋がっている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	職員全員が認知症サポーター養成講座を受講済、個々の周辺症状の原因と対策の話し合いをしている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	認知症の特徴、高齢者リスクを学び理解し、生活リハビリで実践している。	○	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	利用者個々の「できること、できそうなこと」を職員間で共有し誘導と見守りを行っている。	/	/	/	花が好きな利用者には事業所に咲いている花を摘んでリビングに生けてもらうなど、利用者の楽しみやしたいことを把握し、それができる環境を整えられるよう支援している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	一人ひとりの今までの歩みを大切に、持てる潜在能力で、野菜切り、豆むぎ、メダカのえさやり、畑耕しなどそれぞれができることを楽しみとしている。	◎	◎	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	要介護4・5のご利用者も毎日、日中はフロアで他利用者・職員と交流し一緒に楽しく過ごしている。	/	/	/	

愛媛県グループホームつどい

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	弘法大師生誕祭に招待をうけ、車いすや歩行介助で会堂に行き、稚児と交流し、甘茶をいただいた。地方祭では玄関まで出て、お神輿をお迎えした。				利用者の身だしなみやおしゃれを称賛するなどの気配りをしており、食事中に食べこぼしがあれば、さりげなく声をかけるよう努めている。また、訪問美容師に利用者似合う髪型にしてみようなど、重度であっても利用者らしさが保てるようにしている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	◎	朝は必ず、今日着るものを相談し、寝衣から普段着に着替えている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	◎	職員は、利用者の身だしなみに関心を持ち、褒めたり、助言をして、ご本人が満足する身だしなみを保つ支援をしている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	ご家族と協力して、おしゃれな服装をしていただき、必ず、賞賛している。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	外出用のジャケット、帽子、靴等ご家族に協力していただいて用意している。	○	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	◎	常にきれいで居るように援助している。ご家族や見学者がいつ来られても、清潔で身だしなみが整っている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	△	定期的に出張美容に来てくれるのを、楽しみにしている。希望の店にご家族が同行する事もある。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	職員は毎朝髪型や服装の点検をし、整容に努めている。				栄養士が栄養のバランスを考え、利用者の好みや旬のものも取り入れながら献立を作成している。利用者には、近隣のスーパーに食材の買い出しに行ったり、食器を下げたりなど、できることは一緒に行ってもらっている。食器については、季節を感じられるものを献立に合わせて使い分けており、湯呑みや箸などは利用者の好みのもを使い、食べる楽しみに繋げている。食事介助が必要な利用者が増え、職員全員と一緒に食事ができない状況にあるが、食事中は会話をするなど楽しい雰囲気をつくるよう心がけている。重度の要介護状態であっても、利用者ができることは見守り、できない部分のみ食事介助するようにしている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	◎	食事前の手洗い、嚥下体操、献立発表、食事の見守りと介助、服薬援助、食後の口腔ケアまで確実に行っている。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△	毎日ではないが、食材の買い物に同行、食材切り、皮むぎ、後片付け等、利用者とともにやっている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	味付け、盛りつけを相談すると、いきいきした表情になる。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	肉が食べられない人、米飯が嫌いな人など、それぞれ代替えの献立を用意している。			◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	◎	季節のつくし、タケノコ、そらまめ、栗、土用うなぎ、いもたき等々の食材と、節気毎のお雑煮、巻き寿司、柏餅、おはぎ等々の献立を提供している。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	本日の献立の盛りつけを見ていただいてから、食べやすいように工夫して、食べていただいている。			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	茶碗や湯飲み等は、ご本人様が好みの物をもってこられたり、希望によりの施設の物を使用したり、選択に任せている。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	△	食事介助が必要な利用者や、盲目で説明しながら食べていただくので、サポートする職員は常時傍に居るが、一緒に食べる時間のゆとりは無い。おやつは一緒に談笑しながら食べることもある。	◎		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	フロアの一角のオープンキッチンで調理しているので、においや調理の状況が見え、食事前から食事の話題が出ている。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	栄養士がバランスを考慮して、献立を作り、毎食の摂取量を観察記録して、管理している。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	食事摂取困難な、利用者にはムース、ゼリー、とろみ等で工夫しジュース、栄養補助食品等で低栄養、脱水の防止をしている。			◎	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	月1回のミーティングで、話し合いをしている。献立表及び提供している料理の写真をやすらぎ会理事にメールし、ご意見を伺っている。バランスの取れた美味しい食事提供の方針。				

愛媛県グループホームつどい

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	職員はキッチンに入る直前に薬用ソープで手洗いし、すり込み式手指消毒剤で消毒し、専用エプロンを着ける。食材の管理を厳重にし、直接口に入れる物はグローブ着用している。	/	/	/	職員は、年間研修の中で重度の利用者の口腔ケアについて学んでいる。口腔ケアは、居室の洗面台や共用の洗面台で行っており、職員が気をつけながら利用者の口腔の清潔が保てるよう努めている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	歯科医から口腔ケアの研修を受け、重要性を認識している。	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	口腔ケア時の観察によりある程度把握している。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	法人全体で定期的に歯科医の研修を受け、口腔ケアの用具なども使用して支援している。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	夜間は義歯洗浄剤に浸け、毎朝洗浄して使用している。	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	毎食前に口腔体操、食後に口腔ケアを励行している。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	口腔内のトラブル、義歯の不具合を発見すると、主治医とご家族に連絡し、歯科受診をしている。	/	/	/	適切な排泄用品の使い方や介助の方法について年間研修計画を立て、職員全員が学ぶ機会を持っている。利用者が自分でトイレに行くことを基本にしており、排泄にトラブルがあればその都度話し合い改善に繋げている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	排泄の自立を尊重して、自主的にトイレに行くことを基本としている。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	ミーティングで学習し、ほぼ理解している。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	個人の排尿排便について回数、性状等を詳細に記録して、共有している。	◎	/	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	個々の状況によるが、失禁してしまったという意識を軽減するために、パット、紙パンツを使用し、安心してもらう場合もある。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	△	現在、排泄困難の事例はないが、事例が出たときに備え、意識を持ちたい。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	定期的に誘導の必要な人には、早めの声かけや誘導を行っている。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	緊急時を除き、必要な場合はご本人、ご家族と話し合っ、どのような物を、どの時間帯に使うか相談して決めている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	個人の状況により、適時使い分けている。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	野菜、食物繊維をとり入れた献立の工夫をしている。毎日のリハビリ体操、食前の口腔体操と一緒に腹部マッサージを、行っている。	◎	/	○	利用者が希望する時間帯に入浴できるよう支援している。重度の利用者でも湯船に浸かれるよう、昨年10月にリフトを設置し喜ばれている。1対1の介助や同性介助などにも配慮している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	最低週2回は入浴できるように、計画しているが、ご利用者のご気分、ご希望、体調により、融通、変更している。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	一人ずつ見守りのもと、ゆっくり入浴している。季節により、ゆず湯、しょうぶ湯などパラエティーを楽しんでいる。自力で立ち上がれない方にはリフトでゆっくり湯に浸かっている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	安全のため、マンツーマンの介助で入浴しているが、本人が自力でできることはしていただき、できないことを援助している。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	声かけの工夫、時間の工夫をして、どのようにしたら入浴してくれるか、情報を共有している。	/	/	/	

愛媛県グループホームつどい

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	入浴直前にバイタルチェックと体調を確認している。入浴中は全身の皮膚状態を観察、異状時は看護師に報告、対処している。入浴後の着衣、水分摂取まで担当している。	/	/	/	日中に活動する機会を持つことで安眠できるよう支援しているため、睡眠導入剤に頼っている利用者はいない。眠りが浅く夜中に起きてしまう場合には、リビングで一緒にお茶を飲みながら会話するなど、利用者がリラックスできるよう配慮している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	睡眠時の様子を生活記録に記載し、職員全員が共有している。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	△	基本的には生活リズムを作っているが、利用者によって、今までの長い生活リズムがあり、夜更かし、朝寝の習慣が身につけている人もいる。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	現在睡眠導入剤を服用している方はいない。不要不急な内服は避け、主治医と相談の上、状態観察しながら睡眠導入剤投与の選択もある。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	個人個人の生活リズムに合わせ、お昼寝や休養の時間をとっている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	ご本人のご希望に添えるように支援している。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	電話中に傍で、本人の気持ちを、家族に伝えることもある。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	居室にて、施設の携帯電話を使っている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	ご本人のご希望に従って対応している。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	入所時の話し合いでご協力を依頼している。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	もの盗られ妄想の利用者が数人居るので、個人的には所持していない。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	一定の金額を持っていただいて、コンビニ、スーパーマーケットにお買い物に行き、自力でお支払いできるよう援助している。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	近隣のコンビニ、スーパーマーケットに協力を依頼している。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	△	ご家族と相談の上、日常は所持せず、買い物の時には一定額を持ってもらっている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	△	話し合いの結果、個人では所持していない。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	△	基本的に預かり金はなし。使用した分は請求書に記載。	◎	/	○	利用者や家族が希望することについては、職員全員で話し合う機会を持ち、できるだけ対応したいと考えている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	建物横の道路際につどいファームという畑を作り、花木、実のなる木、草花、野菜等を道行く人にも楽しんでいただき、近隣の方が、気軽に草花の苗や野菜を持参してくださっている。玄関には月替わりに、手作りの季節の置物を置き、来所者に楽しんでいただいている。	◎	◎	○	玄関には月替わりで手づくりのものを飾るようにしており、それを楽しみに来所される人もいます。また建物周辺の花や畑を整備し、外からでも楽しんでもらえる環境づくりにも取り組んでいる。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	常時、季節のお花を飾り、つどいだより、ご家族と一緒にの写真等を飾り、すっきりと清潔で心温まる空間としている。	◎	◎	◎	地域の協力を得ながら雛人形やクリスマスツリーなどの装飾を行い、利用者や来所した家族が季節を感じられ心地良く過ごせるよう工夫している。共用空間であるリビングには、食事や作業をするテーブルや利用者がくつろげるようソファ席を設けており、自由に過ごせるようにしている。大きな窓からは日光が差し込み、外を走る車や道行く人の様子を見て楽しんでいる利用者もいる。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	全館を通し職員により、清掃は行き届き、清潔保持がなされている。	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節毎に、松飾り、ひな様、五月人形、七夕、クリスマスツリー等利用者と一緒にご意見を尊重して、用意したり片付けたりしている。	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	プライバシーの保てる居室、共用のフロアを自由に歩き来しソファを都合良く動かし、気の合う同士で交流している。	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	◎	構造上直接見えない。常に見守りの職員が控えている。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	使い慣れた食器を使用し、居室には思い出の写真、孫・ひ孫さんからの手紙を飾って、暖かい雰囲気生活している。	◎	/	○	採光できるよう居室は全て東向きになっている。利用者は使い慣れた机やたんすを持ち込んだり、家族の写真や趣味の習字を飾ったりと、心地良く過ごせる居室づくりをしている。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	建物内部は全てバリアフリーとなっているので、能力に応じて自由に移動している。エレベーターで自由に別の階を訪問できる。必ず見守りしている。	/	/	○	居室の扉は同じようなつくりのため、認知症の利用者でもわかりやすいように、リボンや名札など一人ひとり違った目印を置くことで、自立した生活が送れるよう工夫している。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	居室、共用のフロア等に危険を誘発するものは、置かないルールがある。	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	ほうき、生け花の花器、新聞、雑誌、お茶、湯飲み、メダカの水槽等は身近に置いている。その他希望に応じて直ぐにお出ししている。	/	/	/	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	弊害を理解した上で、施設が市街の中心地に有り交通が頻繁な交差点の角地のため、一歩屋外に出ると危険がある。徘徊の利用者も入居しているので安全を優先し、玄関のみ、やむを得ず施錠しているが、利用者が希望すれば必ず職員同行で外出している。	×	×	△	職員は鍵をかけることの弊害を研修で学んでおり理解している。事業所は車通りの多い道路に面していることも考え、利用者の安全のため家族には同意を得て玄関に鍵をかけている。3階建ての建物の各階へは自由に行き来できるようになっているが、今後は職員が随時見守るなど検討し、鍵をかけない支援にも取り組んで欲しい。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	△	家族と話し合いのもと、建物の1階から3階まで自由に行動していただいている。地域の特性により、防犯と安全重視のため玄関施錠はご家族の理解を得ている。	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	△	常に見守りをし、心理的圧迫をもたらさないように、外出したいときはスムーズに電気錠を解錠して、閉塞感を感じないようにしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	利用者の情報は一人ひとり個別のファイルを作り、職員が常に見て把握できるようになっている。個人情報なので、鍵付き戸棚に入れている。	/	/	/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	身体状態の変化や異常のサインを発見した時は、直ちに管理者に報告及び申し送りをしている。個人記録、生活記録に残している。	/	/	/	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	主治医と医療連携体制ができていますので、主治医はすべての利用者の体調を把握している。いつでも相談指示を仰ぐことができる。	/	/	/	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	職員は利用者の受診状況を把握し、ご希望の医療機関に受診できるように支援している。	◎	/	/	
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	ご本人・ご家族の意向を確認しながら、主治医、看護職、介護職員で、適切に医療と介護支援を行っている。	/	/	/	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	ご家族の受診結果の報告、主治医の報告等によりご家族の合意のもと情報共有している。	/	/	/	
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院時情報提供を必ず入院先病院に提出している。	/	/	/	
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	病院関係者は非常に多忙であるので、こちらから積極的に情報を得るように努めている。	/	/	/	
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	毎朝、入所者の体調を連携病院にFAXで報告しているため、主治医及び病院関係者とは情報共有ができています。	/	/	/	
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	常勤の看護師1名及び非常勤の看護師1名、准看護師2名が配置されているので、介護職が相談できる環境になっている。	/	/	/	
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	医療連携体制が24時間備わっている。	/	/	/	
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	医療連携体制が24時間備わっている。	/	/	/	
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	病院からの現在服用中の薬剤情報を個人ファイルに挿入しているため、いつでも確認できる。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	服薬に関する3回以上の厳重な確認、ヒヤリハットの徹底と飲み忘れ、誤薬防止を厳守している。	/	/	/	
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	毎朝のショートミーティングで日常的に確認を行っている。	/	/	/	
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	毎朝FAXで主治医への情報提供及び大事なことはご家族に連絡している。	/	/	/	

愛媛県グループホームつどい

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入所時に重度化した場合の対応、看取り介護の指針を話し合い、状態の変化に応じてご家族の意向確認をしている。	/	/	/	医療機関併設のため、終末期や重度化への対応を強化している。終末期ケアを実施した利用者も多く、その際には、利用者や家族、主治医など、関係者全員で十分に話し合う機会を設けており、安心した終末期を送れるよう取り組んでいる。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	個別の事例ごとにご本人、ご家族、主治医、看護職員、介護職員が話し合い方針を共有している。	○	/	◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	医療連携事業所なので、看取り介護はあること、心構え等を普段から、職員に教育している。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	入所時に看取りを行っていること。主治医の判断で入院治療して、快復が見込まれる方には、入院の選択がある事など説明と同意ができています。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	医療連携体制、看取り介護体制を整えている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	普段からご家族と相談しやすい、話しやすい関係を保ち、キーパーソンを中心に話し合いを行い、家族間の意見の食い違いのあるときは、あせらず、みんなが納得できる方法を一緒に考えている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	感染症対策について、定期的に所内研修、所外研修を行っている。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	実技研修を行い、発生時の対応の仕方を、ロールプレイで訓練している。感染予防グッズのセットを常備している。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	行政から感染症情報がメールで来る。保健所からの情報は連携病院から流してくれる。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	感染症発生状況を敏感にとらえ、職員に自覚を促し、玄関に掲示して来所者に注意とうがい、手指消毒の徹底。感染の疑いのある方への入所厳禁としている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	事業所内(玄関、トイレ、キッチン、各居室、洗面所等)にすり込み式手指消毒剤を常備し、来訪者、職員、利用者の清潔保持徹底を行っている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	ご家族との連絡を詳細に行い、ご家族と職員が同じ方針でご本人を支えていく努力をし、ご家族と円満な関係を築いている。	/	/	/	運営推進会議への参加や、クリスマス会などを利用し家族会を開催するなど、家族が事業所の行事などに参加する機会を設けている。また、利用者の暮らしぶりを伝えるために、事業所の写真入りの広報誌や手紙の送付や電話連絡をしている。家族から運営上の出来事や職員の異動について知りたいという希望が上がっているため、今後は運営推進会議の議事録の送付や各階の職員の異動状況などを伝えることで家族の理解に繋げたいと考えており、今後の取組みが望まれる。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	家族来訪時は日々の生活状況の報告、利用者と一緒にお茶したり、居室で自由に寛いでいただいている。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	行事等の連絡をして、自由に参加し、面会時ゲームをしていると参加され、ご利用者と一緒に茶菓を楽しまれている。	◎	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	疎遠になっていたり、県外に居住しているご家族にも少なくとも月1回は、状態報告と、つどいだより等を送付。また電話連絡にて、気づきの報告やご家族のご意向を伺っている。	○	/	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	△	先ず、ご家族のご事情、ご意向をお伺いしてから、事業所からの報告を行っている。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	ご利用者とご家族の対面時の状況を見て、良い関係構築ができるように協力している。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	都度報告ではなく、内容により、つどいだより、来訪時、請求書郵送時に文書で報告するなどしている。	x	/	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	行事後、ご家族を交えた話し合いをしている。来訪時顔見知りとなった家族同士が交流の場としている。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	入所時に高齢者に起こりうるリスクの説明を行い、同意を得ている。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	気軽に来訪していただき職員とのコミュニケーションが取れていて、気がかりなこと、相談等は気軽に職員・管理者と話している。	/	/	/	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	契約時に契約の内容、重要事項説明、リスク説明、重度化した場合の指針等を説明し、同意を得ている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	退居事例はないが、契約書にて契約解除過程の同意を得ている。退去後のフォローアップができる体制にある。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、同意を得ている。	/	/	/	

愛媛県グループホームつどい

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	開設前から、法人理事とGH管理者が地域の1軒1軒を訪問し、事業所の説明をし、理解を得ている。	/	◎	/	法人の医療機関が地域に根差した医療を展開していたことから、地域との繋がりも深く、行事や運営推進会議などの協力を得やすい状況にある。庭の畑の耕し方のアドバイスや大根などの野菜や苗の差し入れなど、日常的な交流が行われている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	運営推進会議、地域の行事、事業所の防災訓練等の参加により、顔見知りとなり、ご近所さんとしての交流がある。	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	地域的に一般家庭は少ないが、利用者、職員とは気軽に挨拶をし、利用者に声をかけてくれる。	/	/	/	
		d	地域の人気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	遊びに来られることはないが、何かあれば駆けつけてくれる意思疎通がある。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	タケノコ、キュウリ、大根などたくさん手に入ったからと、気軽に持ってきてくださる。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	地域の婦人会や、民舞愛好会などに働きかけると、定期的にボランティアとして、民舞、盆踊り、お茶会などに協力していただき、手作りお菓子を持ってきてくださったりする。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	地域の人がかつまいもの苗や、トマトの苗を持ってきてくださり、ご利用者と一緒に土作りをしたり、苗を植えたりして、自然に利用者の力を引き出してくださっている。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	ホームだよりをお配りしたり、イベントのご案内をしている。美容室から定期的に出張散髪に来てくださっている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	◎	、毎回利用者ご家族、地域の人、民生委員、市役所職員等の参加がある。	○	/	◎	運営推進会議には、毎回異なる家族や利用者、地域の関係者の参加があり、様々な意見交換がなされている。利用者の様子や活動状況を報告することで、外部評価に対する事業所の取組みを理解してもらい、サービス向上への意見交換に繋げている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	◎	利用状況、活動状況、外部評価への取り組み状況について報告している。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	報告の後は必ず、意見交換会を行い自由に発言していただき、貴重な意見をいただき、サービス向上に活かしている。	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	2~3週間前をメドに日程の連絡をし合って、会議の日時を決めている。	/	/	◎	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	自由に閲覧できるように設置している。	/	/	/	

愛媛県グループホームつどい

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	職員の名札の裏側に貼付し、ホールの玄関及び各所に掲示し、毎朝のミーティングの後に全員で唱和し、理念が職員全体に行き渡っている。理念に基づき、ご利用者の生きてきた歴史を尊重しつつ、寄り添う介護に努めている。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	◎	玄関ホール、ホーム内に理念を掲示。毎回ご家族地域の方々に送付するつどいだよりの下欄に理念を記載して確認していただいている。	○	◎		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	法人全体の定期的研修会、毎月の所内研修会、職員の力量に応じた外部研修会に参加する等取り組んでいる。				母体の病院長である代表者は、職員全員のストレスチェックを予定しており、それをもとに職員が働きやすい環境づくりをしている。代表者や施設長も毎日事業所を訪れ、利用者だけでなく職員にも声かけすることで様子の把握に努めている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるように取り組んでいる。	○	毎年度初めに、1年間の研修計画を作成し、全ての職員のスキルアップに取り組んでいる。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	代表者は、個々の努力や実績、勤務状況を把握し、個人的事情や意見を理解して、職場環境・条件の整備、向上に努めている。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	地域のグループホーム交流会、ケアマネ交流会に参加して、研修、防災、防犯、救急訓練等、また情報交換等を行っている。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	職員が代表者に相談や話し合いがしやすいように、いつでも受け入れ体制が有る。	○	◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	高齢者虐待防止法について定期的に学び、虐待や不適切なケアについて理解している。				年間計画に虐待防止や発見時の手順についての研修を取り入れ、職員全体で防止や理解に繋げている。言葉の虐待など、職員同士が注意し合いながらケアするよう努めている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	管理者は、職員のケアが一歩間違えば虐待になることを、敏感にとらえ、職員と日々のケアについて振り返りと話し合いをしている。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	普段から職員に報告、連絡、相談の徹底を行い。見ないふり、気づかないふりは絶対してはならないと教育している。			○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	職員が疲労やストレスを相談しやすい環境作りに努めている。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	身体拘束についての所内研修会を実施、学習して理解している。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	業務を優先して、利用者の自由を束縛すること、例えばドアに施錠などは拘束であり、絶対してはならないなど、話し合いで確認している。				
		c	家族等から拘束や施錠の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	入所時に拘束しないケアの取り組み及びリスクの説明をして理解と同意を得ている。				

愛媛県グループホームつどい

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△	現在、当事業所での適応は内が、管理者、介護支援専門員等は研修を受け理解している。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	△	事例はないが、相談にのる体制はできている。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	△	事例はないが、連携体制はできている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	緊急時対応手順をホール、事務室に掲示し、職員は周知している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	併設病院と連携して、定期的な訓練に参加している。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハットは必ず提出することが徹底している。定期的にヒヤリハット検討会を行っている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	ミーティングにて、個々の利用者の事例検討会にて検討し、事故防止に取り組んでいる。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情対応のマニュアルを理解し、対応方法について検討している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	△	特に事例はないが、苦情が寄せられた場合は手順どおりに対応ができるようにしている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	△	特に事例はないが、苦情が寄せられた場合は手順どおりに対応ができるようにしている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	苦情担当窓口を設置していることを、重要事項説明書に明記し、説明している。			○	苦情担当窓口の設置以外に、日常生活でも苦情や要望を言いやすい雰囲気をつくり、利用者がいつでも不満などを表出できるよう配慮している。家族からの意見は、面会時や電話などで聞く機会を設けており、意見箱も設置している。また、管理者は職員が意見や要望を言いやすいよう、他愛のないことでもしっかり聞くよう心がけている。家族からの意見や職員からの提案はミーティングなどで検討している。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	苦情担当窓口を設置していることを、重要事項説明書に明記し、説明している。	○		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	△	ご家族との話し合いの場で情報提供している。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	代表者は医療連携の担当医でもあり、ほぼ毎日来所し、ご利用者、職員の状況を把握しており、気軽に会話している。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	管理者は、定期的ミーティングには必ず出席し、職員の意見を聞き、ご利用者本位を優先することを常に話し合い、自覚を促している。			○	

愛媛県グループホームつどい

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	評価項目を職員全体が周知し、平日より自己評価に参加している。	/	/	/	自己評価や外部評価の内容は運営推進会議で報告している。どのように改善すれば良いのかなど、参加者と一緒に検討し意見をもらっており、今後の取組みに活かすことができている。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	課題を明らかにすることにより、年度目標として、取り組んでいる。	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	目標達成計画を作成し、その達成に向けて1年をかけて全体で取り組んでいる。	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進会議メンバー、全ての利用者のご家族には評価結果と目標達成計画を報告している。	○	○	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	日頃より、職員の意識を喚起して、成果の確認をしている。	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	対応マニュアルをいつでも閲覧できるように設置している。	/	/	/	地域の人も参加し、日中や夜間想定 of 防災訓練を実施している。運営推進会議でも、搬送方法の確認や練習、津波の際の移動などについて話し合い、協力や支援体制を強化している。事業所は耐震性の建物であるため、今後は地域の福祉避難所としての提供も検討している。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	年2回の防火訓練と同時に災害訓練を夜間、日中の時間帯を想定して行っている。	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	定期的消防署の点検、及び職員がチェックリストに従って、確認と点検を行っている。	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	◎	年2回の防災訓練には必ず近隣からの参加があり、利用者避難援助の役割を担ってくださっている。	○	◎	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	地域のグループホームで協力して、訓練と学習をしている。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	当事業所において認知症サポーター養成研修を開催し、全職員が認知症サポーターとなっていて、いつでも誰でも相談を受ける体制になっている。	/	/	/	医療機関からの紹介などで、随時地域の高齢者や家族への相談支援を実施している。地域の介護や認知症専門の事業所として、以前に認知症家族の会を開催したことがあるが、現在はそれが断ち切れになっているため、認知症カフェや介護教室などとして再開していきたいと考えており、今後に期待したい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	随時、相談を受けることができる。	/	○	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	実績は無いが、要請があれば事業所を活用していただくことはできます。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	認知症家族の会の見学、相談会の受け入れを行った。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	×	実績はないが、情報があれば、今後参加してゆきたい。	/	/	△	